

令和 5 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 壬生老人ホーム

法人理念

人の和 地域の輪 ふれあいの場

職員（処遇）心得10則

第一（処遇の基本）

処遇に当たっては、「してあげる」のではなく「させていただく」という謙虚な気持ちで利用者、ご家族の目線にたって業務に当たること。

第二（明るい環境）

利用者と職員の間人間関係を良好に保ち、常に明るい職場環境を作るように努めること。

第三（誠実な仕事）

処遇等を行うに当たっては、利用者・ご家族や第三者からの評価に値するサービスを提供できるよう努め、裏表なく誠実に取り組むこと。

第四（責任の自覚と相互協力）

与えられた業務については、責任を持ってミスなく確実にを行うことはもちろん、職員は相互に協力し合って 仕事を行うこと。

第五（相手の立場に立つ）

サービスの提供に当たっては、常に相手の立場に立って行い、自分のペースや判断で行わないこと。

第六（言葉と行動）

サービスの提供に当たっては、言葉遣いや行動・態度に注意し、ハッキリ明快かつ親切・丁寧に行うこと。

第七（施設環境の美化）

事業所内の環境美化は、間接的な処遇であることを認識し、清掃・消毒などは確実に丁寧に行うこと。

第八（誇りとイメージアップ）

職員としての誇りと自信を持って業務を行うと共に、外部の人との応接には特に気を配り、ホームの イメージアップに努めること。

第九（意見の交換と研究）

サービスの質の向上のために、職員相互の意見交換を行うと共に、常に問題意識を持って研究に努めること。

第十（私生活の自律）

急な勤務の変更が、利用者や他の職員に与える影響が大きいことを認識し、平素の生活リズムを乱さないように、私生活には 十分注意すること。

令和5年度 壬生老人ホーム 事業報告

目次

第1 令和5年度の概況

第2 法人の状況

1. 役員の状況
2. 役員会の開催状況

第3 各事業結果

I. 特別養護老人ホーム

1. 主な統計（令和6年3月31日現在）
2. 生活援助等
3. 機能訓練
4. 保健、医療
5. 給食関係
6. 寄付
7. 助成金
8. 一般事務・施設管理・防災
9. 人事、労務関連
10. 待機状況及び入所判定委員会
11. 会議・委員会・研修
12. 収支状況（特養、短期（予防））
13. 診療所

II. ショートステイ

1. 利用実績
2. 担当者会議への参加
3. 特養空床の活用状況
4. 介護事故、忘れ物等
5. 苦情
6. 衛生管理

III. デイサービス（通所介護）1号通所事業

※別紙 「デイサービス事業 令和5年度事業報告」 参照ください

- ・利用状況
- ・収支状況

IV. 居宅介護支援事業所（在宅介護支援センター）

※別紙 「居宅介護支援事業 令和5年度事業報告」 参照ください

- ・利用状況
- ・収支状況

第4. 法人全体の収支状況

1. 単年度収支
2. 繰越額及び使途計画

※詳細は別途決算報告書を参照ください

第5. ま と め

第1 令和5年度の概況

令和5年度の各事業は年度末には、おおむねコロナ以前の状況に回復した。

コロナの5類移行後も複数職員がコロナ感染したがクラスターには至らなかった。しかし令和5年10月に特養でインフルエンザがまん延しクラスターとなり京都市へ事故報告を提出する事態となった。利用者の居室隔離等初動体制を徹底し、重篤な症状に至る利用者はなかった。

全事業で基本的人権を尊重し、利用者が可能な限り自立した生活を継続できるように生活の支援を行ったが、染防止対策のため行事等は少なからず影響があった。

報告書作成時点では、再度のコロナクラスターの発生はない。

職員の過失や虐待による重大事案、福祉施設としての責任を問われる事案の発生はなかった。

経済的損失を伴う災害も発生しなかった。

介護人材確保には引き続き苦戦しており、紹介業者や派遣職員も利用しているが十分には人材が確保できていない。

義務化されたBCP（事業継続計画）は、年度末に整備した。

第2 法人の状況

1. 役員状況 現在、定数 理事6名 評議員7名 監事2名 未充足はない。

2. 評議員会・役員会の開催状況

開催年月日	議 題
令和5年度 監事会 令和5年4月24日開催	【第1号議案】 令和4年度 事業報告 決算報告 【第2号議案】 社会福祉充実残額の報告について
令和4年度 第1回 理事会 令和5年4月20日開催	【第1号議案】 令和4年度事業報告・決算報告について 【第2号議案】 社会福祉充実残額の報告について 【第3号議案】 次期 理事・監事の推薦者の承認について 【第4号議案】 次回評議員会の開催日時、場所及び審議事項について その他 前回理事会以降における理事長の職務執行状況の報告
定時評議員会 令和5年6月24日開催	【第1号議案】 令和4年度 事業報告、決算計算書類及び財産目録の承認 令和4年度 社会福祉充実残額の報告 【第2号議案】 任期満了に伴う次期 理事・監事の選任 【第3号議案】 役員報酬規程他の改訂について：否決
令和5年度 第2回 理事会 令和5年6月24日開催	【第1号議案】 理事長の互選について：松浦俊海の重任 その他 給食委託業者の選定に関して
令和5年度 第3回 理事会 令和5年1月14日開催	【第1号議案】 令和5年度 補正予算について 前回理事会以降における理事長の職務執行状況の報告 京都市実地指導の結果報告 令和5年度上期の事業実績
令和5年度 第4回 理事会 令和5年3月16日開催	【第1号議案】 令和6年度 事業計画、当初予算の承認 【第2号議案】 給与規程の改訂 その他 前回理事会以降における事業運営状況の報告

第3 各事業結果

I. 特別養護老人ホーム 定員50名

1. 主な統計 (令和6年3月31日現在)

ア. 利用者の状況

単位：才

年令分布	～70歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	計	平均年令	男	女	平均
令和5年度	1	6	19	23	1	50	令和5年度	84.3	88.8	88.0
令和4年度		6	18	26	0	50	令和4年度	82.5	89.8	88.6
令和3年度	1	5	18	28	0	49	令和3年度	81.9	89.2	88.0

入所期間	～1年未満	1～3以上 未満	3～5以上 未満	5～10以上 未満	10～15以上 未満	15～20以上 未満	20～25以上 未満	計	平均年
令和5年度	12	23	8	5	2	0	0	50	2.2
令和4年度	18	18	4	8	1	0	1	50	2.9
令和3年度	11	19	9	8	2	0	1	49	3.6

イ. 年度内の入退所状況

入所	入退所時年齢						在宅から	施設(病院)から
	60～69	70～79	80～89	90～99	100～	計		
男	0	0	3	0	0	3	2	1
女	1	2	4	2	0	9	5	4
計	1	2	7	2	0	12	7	5

退所	～69	70～79	80～89	90～99	100～	計	死亡(施設内)	死亡(入院先)	在宅復帰
男	0	1	2	1	0	4	1	2	1
女	0	0	1	9	0	10	9	1	0
計	0	1	3	10	0	14	10	3	1

経済的な事情により在宅へ復帰した利用者が1名あった

ウ. 介護度分布と利用日数

介護度分布 年度末現在 ※年度末の要介護度平均は、4.06で0.2ポイント増した

	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計	平均
令和5年度	2	12	23	13	50	3.94
令和4年度	1	12	20	17	50	4.06
増減	+1	±0	+3	-4	±0	-0.12
令和3年度	0	15	26	8	49	3.86

介護度別 利用日数 合計利用率 ※昨年度よりも0.76ポイント向上した

	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	計	利用率
令和5年度	448	4,417	7,968	4,945	17,778	97.4%
令和4年度	360	4,489	8,572	4,218	17,639	96.7%
増減	+57	-107	-609	+695	+36	+0.8%
令和3年度	0	6,621	8,312	2,639	17,572	96.1%

2. 生活援助等

ア. 日常処遇とケアプラン

包括的自立支援プログラム（三団体版）を採用し、入所者個々人のニーズを具体的に把握し処遇計画を策定し、本人、家族に承諾を得て実施した。ケアプランが実行されているかを毎日チェック表にて点検し、原則として認定更新時にケアカンファレンスを開催し見直しを行なった。

イ. 身体介護

昨年同様、寝たきり状態の利用者には、特に身体の清潔と褥瘡の防止に配慮し、入浴・清拭・体位交換あるいは離床活動に努めた。また、比較的ADLの高い利用者にあつては自立を促す方向での介護に努めた。

ウ. 虐待防止

虐待の発生防止のため、研修、職員ヒアリング等を通じて防止に努め、職員・利用者・家族・行政からの虐待の苦情や通報等はなかった。

エ. 身体拘束の廃止に向けて

令和5年度中の身体拘束事例はなかった。

拘束の種類	前年度から継続	拘束開始数	拘束廃止数	年度末件数
四点柵	0	0	0	0
Y字ベルト	0	0	0	0
ミトン	0	0	0	0

オ. 介護事故等

介護事故予防と発生した事故の分析検討については、事故が発生した直後に各職種による検討会を行うとともに、「事故対策委員会」において統計分析を行った。

介護事故は、ヒヤリハット事例64件も含め内部報告に至った総数は251件で、政報告を伴う事例が1件発生（骨折）した。事故に関しては軽微なものも含め、速やかにご家族に顛末を報告し全ての事故において家族の理解を得られた。今後も事故発生数の減少に努力を怠らないように努力する。

カ. 苦情件数

種類	直接の申出によるもの	公的機関から連絡があった件数
介護方法	なし	なし
言葉遣い	なし	なし
職員の対応	なし	なし
サービス内容	なし	なし

キ. 感染症対策・環境整備・保健衛生

- ・令和5年10月に2階フロアで職員7名、利用者13名が次々にインフルエンザに罹患した。各人の隔離を行い重篤な状態になった例はなく発生後約20日間で終息宣言を行った。
- ・散発的に職員がコロナに罹患したが、コロナによるクラスターの発生は無かった。
- ・コロナの5類移行後徐々に面会制限を緩和し、現在は玄関ロビーでビニールシートなしで短時間（15～20分内）での面会できており、5月以降は家族のフロア内への立入や家族との外出、外食も許可の予定である。
- ・従来通り、1人あたり2回/月のリネン（シーツ）交換・月2回（及び随時）の居室清掃を行い、衛生的な住環境を提供でき疥癬等の発生はなかった。
- ・非常勤職員により館内清掃を実施しているが、職員の退職に伴い館内清掃が十分に行えていない。
- ・理美容については、コロナの5類移行後は従来同様理美容希望者（意思の表明が出来ない利用者は、職員が判断）に対し理美容業者により月1回を実費で理美容を受けていただいている。
- ・飲料水について、法定の受水槽・高架水槽の清掃を行い、検査機関による水質検査の結果も飲用に

問題なかった。

- ・トイレの清掃には重点をおき非常勤職員と委託業者による清掃を平行し臭気対策を講じた。



居室清掃



理容サービス



受水槽清掃

キ. 嗜好品の購入支援及び個別外出サービス、その他の教養娯楽

- ・利用者の要望による嗜好品や日常生活品は職員が聞き取りを行い購入支援している。
- ・コロナ禍のため、ショッピングセンターや外食などコロナ禍以前に行っていた個別外出はドライブ程度にとどまらざるを得なかった。
- ・前年度同様毎月の誕生会を実施した。コロナの5類移行後からは、フロア合同で誕生会を行った。
- ・屋外行事である「流しそうめん」「花火大会」「餅つき」は従来通り実施できた。
- ・広報誌「すこやかだより」については従来通り毎月発行ができた。

ク. 家族懇談会の開催

「家族懇談会」はコロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

ケ. 家族、利用者アンケートの実施

令和5年度の「家族アンケート調査」は、業務が重なり実施できなかった。

コ. 機能訓練

従来とおりに毎朝各階毎に「すこやか体操」を実施する他、嘱託の機能訓練指導員を雇用し月2回のリハビリ指導を行い、対象者には日々リハビリ訓練を実施している。

サ. 主な教養娯楽行事と施設行事



毎日すこやか体操



4月 - 灌佛 壬生寺花まつりの見物



境内での花見



境内散策



ベランダでの外気浴



行楽ドライブ



新選組慰霊祭見物



フロアでのレクリエーション



七夕飾り



非難訓練



壬生寺総合防災訓練



行楽ドライブ



境内の紅葉



風船釣り



3年ぶりの抹茶慰問



物故者法要



かき氷会



運動会



花火大会



保育園運動会観覧



境内散策



もちつき



仏間から 除夜の鐘



理事長賀詞



初釜



節分



100才の祝伝達



ひな飾り



夜間想定火災訓練



シ. ボランティア・寄贈 等

ボランティア	慰問	寄贈
ボランティアの受入れは見送った	8月に3年ぶりに裏千家青年部による抹茶慰問を受けた	朱常分店：バナナ10kg（年2回） 中央卸売市場：みかん、さけ その他：使い捨て用古布地等

コロナ禍の影響で、ほぼ全ての慰問を中止せざるを得なかった。

3. 機能訓練

毎朝すこやか体操を実施するとともに、ADLの低下防止・諸機能の回復・維持のために、フロア毎に隔週で1回（金曜日）レクリエーションリハビリを実施した。内容はペットボトルボーリング・ちぎり絵作りなどレクリエーションリハビリが主であった。利用者間での社交の場となり参加者には精神的な安定が見られた。リハビリについては、現状では、レクリエーション的なものしか実施できていない。理学療法士と契約し月2回介護職員へのリハビリ指導を受けている。



日常におけるすこやか体操 リハビリ風景

4. 保健、医療

ア. 日常の健康管理

嘱託医師の診察や各種検査（1回/年の健康検査、適宜の尿・血液検査、経皮的動脈血酸素飽和度測定など）により、入所者健康状態の異常の早期発見に努めた。

また、嘱託医師の他、地域医療機関の協力を十分に得て、早期受診を心がけ、通院・入院などにおいて万全の体制で臨むことができた。

イ. 定期健康検査

特養入所者全員を対象に、検尿・血液検査・心電図検査・胸部レントゲン（結核予防検査）（各1回/年5月）を実施し、異常の早期発見や早期治療開始に結びつけるように尽力した。

ウ. 協力歯科診療所との連携

協力歯科診療所と連携し、口腔検診、随時の処置を行っている。

エ. 褥瘡予防への取り組み

褥瘡予防に関しては、褥瘡委員会を隔月で開催しリスク対象者に対し「褥瘡予防マット」を使用し、介護職員による体位交換や看護職員による早期の治療処置の結果、重症化に至る事例は確認できなかった。

オ. 感染症対策

(1) コロナ・インフルエンザ

コロナについては、職員が散発的に罹患したがクラスターに至らなかった。

感染症対策委員会において感染症対策を行ったが、10月に2階フロアでインフルエンザがまん延しクラスターとなり、利用者13名 職員7名に感染した。

(2) 感染性胃腸炎対策

職員利用者への手指消毒等の徹底を周知した結果、感染者はなかった。

(3) その他 疥癬やO-157等の流行はなかった。

5. 給食関係

栄養ケア計画に基づいて利用者の個別性に対応し、安全で衛生的な食事、経腸栄養法による栄養補給、栄養食事相談、多職種協働による栄養問題への取り組み等を実施した。

今後も継続して利用者の低栄養状態を予防し、改善していく必要がある。

ア. 栄養量

令和5年度の一日当たり

	熱量 kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	ビタミン Cmg	添加塩分 g
平均	1428	60.1	46.2	406	58	7.4

概ね目標通り適正に食事提供をする事が出来た。特に個々の嗜好に合った食事や、それぞれの身体状況に適合した食事形態について配慮した。

イ. 給食費

令和4年度の1ヶ月の平均購入金額は325万9365円で1日1人当たりの食材料費と給食業務委託費は2033円（おやつを含）であった。

ウ. 食中毒予防

職員の健康診断・検便を始め、手洗い、うがいの励行、熱湯消毒、アルコール消毒等の基本に従い、又、食品の取り扱いや厨房の清掃、清潔保持に配慮し、衛生管理マニュアルを参考にし、食中毒予防に努めた。

エ. 厨房内の整理、整頓、清掃、害虫駆除等

害虫やネズミについては、給食職員により毎月一回の定期清掃を行うほか、年間2回駆除業者に駆除薬の散布を委託した。また調理室内にオゾン発生機を設置し夜間に相当濃度のオゾンを発生させることにより、ゴキブリ等の害虫は殆ど見られない。

オ. 嗜好調査

入所者の嗜好や現在の食事に対する不満等の状況を把握し、献立の作成、調理方法、その他食事の提供方法へフィードバックを行い、食事に対する入所者の満足度を向上させるために嗜好調査を実施した。

6. 寄付関係

現金寄付はなかった。例年とおおり バナナ みかん等の寄付をいただいた。

7. 助成金等

- ・食費、物価高騰支援金の給付があり、特養、短期、合計で623万円の給付があった。
- ・共生社会実現サポート補助金を利用し、小型発電機・テントを購入した。

8. 一般事務・施設管理・防災

ア. 経理事務と文書保管

(1) 経理事務関係

一般事務処理については、預り金の取扱、その他金銭出納上の事故の絶無を期し複数職員によるチェック制を取って事務処理に当たった。

(2) 文書の保管

介護サービス計画、ケース記録を初め、寮母日誌、看護記録、給食記録、その他記録文書の適正な作成と分類・保管について京都市条例の沿い処理した。

(3) 利用者預り金関連

利用者からの預り金は、1名を管理していたが、年度中に退所され現在は利用者の資産は預かっていない。

イ. 施設整備・物品購入関係

(1) おもな高額物品の購入と施設設備の改修

令和5年度は、老朽化したエアコン3台(80万円)を更新したほか、職員用湯沸かし器(17万円)の更新を行った。また懸案であった、東出入口の拡幅工事(90万円)を実施した。
共生社会実現サポートを活用し福祉避難所用テント・小型エンジン発電機を整備した

ウ. 防災関連

大規模災害関連

- (1) 災害による物的人的損害は発生しなかった。
- (2) 居宅支援事業所職員が京都府災害派遣福祉チーム(京都 DWAT)のメンバーとして能登半島震災の避難所で援助活動を行った。
- (3) 共生社会実現サポートを活用し福祉避難所用テント・小型エンジン発電機を整備した。

エ. 防火訓練

- 1) 7月 壬生寺総合防災訓練に参加し、避難訓練をおこなった。
- 2) 3月 夜間想定訓練において、中京消防署の立ち会いを求め夜間想定訓練(通報、初期消火、避難訓練)を行った。



避難誘導訓練



消火器操法訓練



屋内消火栓操作訓練



通報訓練

オ. 職員研修

市老協 各部会へ参加し、ケアプラン等の知識、技術の向上を図った。
外部・内部研修を計画し職員の知識の向上に努めた。

カ. 各種実習の受け入れ

実習実績

実習種別	養成機関
介護福祉士	コロナ感染拡大防止の観点からすべての実習受け入れを見送った
社会福祉士	
高齢者施設見学実習	

9. 人事、労務関連

・職員の異動状況

正規職員2名を採用した。

- ・「介護職員処遇改善加算」「特定介護職員処遇改善加算」を充当し賃金改訂(昇給)を実施した。
- ・紹介業者への手数料として、正規職員1名非正規職員1名分 約100万円を支出した。

(参考) 介護職員(正規職員)の平均年収

経験年数	平均年収	経験年数	平均年収
30年以上	約530万円	5年以上 10年未満	約430万円
10年以上 20年未満	約440万円	1年以上 5年未満	約360万円

・職員福利厚生関係

3年ぶりに壬生寺合同忘年会と全職員の職員懇親会を開催した。

10. 待機状況及び入所判定委員会

入所申待機者は、令和6年3月末現在で512名（男性186名 女性326名）である。

	I	II	III	IV	V	不詳	計
男	0	23	76	42	42	3	186
女	9	5	154	78	78	2	326
計	9	28	230	120	120	5	<u>512</u>

要介護Ⅱの方を1名措置入所で受け入れ5月に契約に移行した。

またやむを得ない家庭の事情による要介護Ⅱの利用者を1名受け入れている

新規入所者の決定は、京都市老人福祉施設協議会において定められた「優先入所指針」に基づき毎月「入所判定委員会」を開催し検討しているが、職員の介護技術や医療体制から、申込時点において医療色の濃い申込者（IVH、鼻腔栄養、胃ろう、人工透析等）については、受入を見合わせている。

11. 会議・委員会・職員研修

従来通り、各事業の役職者が参加する事業を横断した「調整会議」（1回/月）を開催し、各事業の運営状況報告や周知事項の伝達を行うとともに、京都市老人福祉施設協議会施設長会での連絡事項や業界動向を伝達した。

また、フロア毎の介護職員会議、給食会議を実施したほか、一部開催が低調な委員会もあるが、法に定める各種委員会（感染症対策・事故対策・身体拘束・褥瘡・サービス向上）を定期的で開催し介護サービスの質の向上に努めた。

12. 収支状況

(1) 収入

利用率の向上やベースアップ加算により施設介護料収益は811万円増加した。

物価高騰・食材費高騰支援金 計583万円の収入があった。

結果 サービス活動収益は、前年度比+418万円の増額し 22792万円であった。

(2) 支出

人件費：職員が確保できず、人件費は前年度△191万円となった。

事業費：政府による補助により光熱費が減少し前年比 △93万円となった。

事務費：人材紹介費用、修繕費等の減少により前年度比 △261万円の3181万円となった

(3) 当期活動増減差額

当期活動増減差額は、前年比約2000万円増の1053万円発生した。※特養・短期合算

詳細は決算報告書を参照ください。

13. 診療所

嘱託医2名及び特養看護師により特養入所者の日常の健康管理を行いほぼ前年度と同様の運営を行った。

収支状況は、医療事業収益は△20万円となったが、当期活動増減差額は+236万円となった。

II. ショートステイ4床 (特養との一体運営)

コロナ感染防止のため、嘱託医のアドバイスにより空床ベッドを利用している新規利用者を制限（中止）したため、利用率が低迷した。

家族（送り出しヘルパー）に送り出し時の体温測定等体調確認の徹底を依頼している。

1. 利用実績

コロナ後の利用率の回復により延人数 265 名の大幅増加となった。

年度	介護度		要支援	I	II	III	IV	V	計	日平均（人）	利用率
	延日数										
5年度	延日数		2	149	61	258	608	282	1360	3.7	124.2%
4年度	延日数		0	15	68	285	400	346	1114	3.1	101.7%
増減	延日数		2	134	-7	-20	220	-64	265	+0.7	+22.5%

コロナの影響が回復し利用率が 22.5%増加し、124.2%となった。

介護職員数とのバランスに配慮し定員は 4 名だが、空床利用を除き原則 3 名の受入に制限した。

利用者の入退所希望時間に 施設職員により送迎を実施し、送迎事故はなかった。

2. 担当者会議への参加

サービス事業所間の連携を重視し、利用者及び家族の要望に応えるべく、担当者会議へ積極的に参加した。そこで得た情報を短期入所生活介護計画に反映し、事業所内で共有した。また、利用者または家族同意を得た短期入所介護計画書は、担当する介護支援専門員へも送付した。

3. 特養空床の活用状況

希望される日程で予約が取れるよう調整するよう努力したが、空床待ちとなる申請者も多数おられ、特養ベッドの空床を利用者や家族の同意を得た上で、積極的に紹介するよう努めたが、コロナ感染予防のため嘱託医のアドバイスにより空床ベッドを利用している新規利用者を制限（中止）した。

ショートステイ利用者への介護支援が介護職員の過重な負担とならないように配慮した。

4. 介護事故、忘れ物等

行政報告に至った重大事故はなかった。衣類等の持参品は紛失、間違いが無いよう個別に洗濯する等の対策を取っている。返却忘れはほぼ無く、苦情に至った事例はなかった。

5. 苦情等

大きなトラブルに至るような苦情・要望はなかった。事前の様子聴き取りと退所時のお手紙「利用中のご様子」で情報の共有を行い、苦情や事故につながらないように注意した。担当介護支援専門員へも、利用毎に様子報告を行った。

種 類	直接の申出によるもの	公的機関から連絡があった件数
介 護 方 法		
言 葉 遣 い		
職 員 の 対 応		
サービス内容（居住環境）		
その他		

6. 衛生管理

シーツ、布団カバー等のリネン類は入所の都度新しいものを使用していただき、寝具も随時に乾燥機により熱風乾燥させ、衛生的な滞在環境を提供した。

7. 収支状況

(1) 収入

利用率の向上やベースアップ加算により 居宅介護料収益及び利用料は 296 万円増加し 1692 万円であった。

物価高騰・食材費高騰支援金 計 33 万円の収入があった。

結果 サービス活動収益は、前年度比+314 万円の増加し 1732 万円であった。

(2) 支出

前期資金収支繰越のうち 1501 万円を特養へ繰入れた。

(3) 当期活動増減差額 ※短期のみ

当期活動増減差額は、前年比 187 万円増の 228 万円発生した。

詳細は決算報告書を参照ください。

Ⅲ. デイサービス（含 1 号通所事業）

令和 5 年度のデイサービス事業については、従来通り基本的人権を尊重し、利用者やご家族の意見を最大限汲み取り利用者家族に「みぶデイサービスを利用してよかった。」と思っただけけるようにサービスを提供した。運営はおおむねコロナ前の状況に回復しベースアップ加算や食費・物価高騰支援金等の収支により当期活動増減差額はプラスとなった。

※詳しくは 別紙 令和 5 年度 壬生デイサービス事業報告を参照ください

・利用人数等

利用者数は、年間延 4775 人（前年比+21 人）と前年より若干増加した。入院や施設入所が頻回にあり利用者数の大幅な増加はなかった。

収支状況

(1) 収入

利用率の向上やベースアップ加算により居宅介護収入は 98 万円増加した。

物価高騰・食材費高騰支援金 計 115 万円の収入があった。

結果 収益は、前年度比+176 万円の増額し 5190 万円であった。

(2) 支出

人件費：職員が確保できず、人件費は前年度△274 万円となった。

事業費：政府による補助により光熱費が減少し前年比 △86 万円となった。

事務費：前年度比 △54 万円となった

(3) 当期活動増減差額

当期活動増減差額は、前年比 278 万円増の 225 万円発生した。

Ⅳ. 居宅介護支援事業所（在宅介護支援センター）

年間実人数 139 人（月平均 114 人、ケアマネ 1 人当たり月間 30 件）を取り扱い、事故等重大事案はなかった。居宅年度計画を立案し、年度末に達成状況を確認し、研修、地域会合等に参画した。居宅のケアマネ 1 名が D W A T から元日に発生した能登半島地震の被災地支援に従事した。

※詳しくは 別添 令和 5 年度 居宅支援事業所報告書を参照ください

収支状況

(1) 収入

令和4年度末にケアマネ1名を増員し、新たな加算の取得や物価高騰支援金(27万)のため、サービス活動(事業)収益は640万円の大幅な増収となった。

(2) 支出

正規職員の増員のため人件費等で約310万円の増加となった。

(3) 当期活動増減差額

当期活動増減差額は、前年比158万円増の161万円発生した。

居宅支援事業のまとめ

令和5年度はコロナも第五類となったために、外部の会議・研修の機会が増えた。

引き続きコロナだけでなく、インフルエンザなどの感染予防にも十分に留意しながら日常業務の継続に努めた。また、来年度は制度改正の時期に当たるため、行政や関係機関との連携を図り、情報収集に努め対応したい。

第4. 法人全体の収支状況 (別紙 決算書類 参照ください)

1. 単年度収支

(1) 収入

- ・介護保険事業収益(特養・短期・通所・居宅)

3億2405万(前年度比+1513万)となった。

※増益のうち786万円が物価高騰、食費高騰支援金であった。

- ・医療事業収入は、約335万円(前年比△20万)となったが、当期活動増減差額は+230万円発生した。

(2) 支出

ア. 人件費支出

人件費支出は、昨年度と比較すると約170万円減少した。

処遇改善加算を充当しての定期昇給、「特定介護職員処遇改善加算」をルールに従い一時金として支給した。

介護事業全体での資金収支レベルでの人件費率は68.7%(前年73.6%)となり、昨年度比4.9ポイント減少した。※計算上の分母(収入の増加による影響が大きい)

イ. 事業費支出

事業費支出は、光熱費の政府補助もあり昨年比約200万円減少し4250万であった。

ウ. 事務費支出

事務費支出は、人材紹介業者への支払いが減少したため約200万円減少した。

エ. 当期活動増減差額

事業活動における、「当期活動増減差額」は+1432万円となった。

オ. 当期資金収支差額

資金収支における、「当期資金収支差額」は、補助金収入に伴う影響が大きく+2474万円で、当期末支払資金残高は、2億9280万円となった。

2. 繰越額及び使途計画

令和5年度の法人全体における当期末支払資金残高は、2億9532万円(前年比+2473万円)であ

る。一定額の留保は確保できており資金面での法人運営には支障は生じていない。支払資金残高については、将来の人件費や老朽化した施設設備の改修に充当する予定をしている。

3. 社会福祉充実残高

社会福祉充実残高計算シートを用い、社会福祉充実残高を計算した結果、マイナスとなり、充実計画の作成はおこなっていない。

第5. 法人全体のまとめ

令和5年度の社会福祉法人壬生老人ホームの事業は、概ね以上の通りである。コロナの5類移行後も市内特養で散発的にクラスター発生の情報があり、緊張を強いられた1年であった。

全体として、特養のインフルエンザクラスターを除いては、各事業の介護サービス提供において重大な事故、ご家族とのトラブル等もなく、概ね従来とおりの運営を継続できた。

経営においては、資金的な体力は一定確保できているが、人材の確保に苦戦している。